

■奥村多喜衛 牧師。アメリカ領ハワイ準州で、排日運動が高まるなか、米国人化すべく、伝道と教育事業に尽くした。

おくむらたきえ

薩摩藩士密航1865＝ 安芸郡田野村で、土佐藩の郡奉行奥村又十郎任道の長男に生まれる。

のちに、土佐立志社社長、同志社社長にもなる片岡健吉とは親戚関係にあり、幼時より親交、

明治維新・・・1868＝ 3歳：

明治6年政変 1873＝ 8歳：

佐賀の乱・・・1874＝ 9歳：

沖縄県編入・1879＝13歳： 高知中学校に入学するも、

民権派校長や教員が処分されたことに反対して無断欠席し、除籍処分になり、

明治14年政変1881＝16歳：

高知を伝道中のフルベッキの説教を熱心に聞くも、不平等条約のことを追求して議論になり、キリスト教にも反感を抱くようになる。

岩倉具視没・1883＝18歳：

内閣発足・・・1885＝20歳：

大阪府警に書記として就職したが、片岡健吉らが主張した自由民権の三大事件建白運動に身を投じて上京、

後藤藤三郎の下で建白書印刷に従事し、片岡の勧めで一番町教会の礼拝に出席するようになったが、

国民之友始・1887＝22歳：

保安条例の施行により、東京三里外に退去させられ、大阪に戻ると、大阪教会の宮川経輝牧師のもとキリスト教への信仰を深めて受洗、結婚し子どもが誕生して極貧になるなか、

帝国憲法発布1889＝24歳：

帝国議会始・1890＝25歳：

新島襄の死去した年、同志社神学校の、正規の英語の講義でない、エリートと呼ばれる人々とは異なる、邦語神学科に入学。

大本教・・・1892＝27歳：

ハワイに移住した日本人の伝道に従事する岡部次郎牧師が同志社に来訪して伝道師を募集、これに呼応して、奥村禎二郎(江口一民)らがハワイに渡って、日本人移民の子弟教育や福祉に貢献するのを見て、

日清戦争始・1894＝29歳：

デービス教授と相談の上、卒業するとともに、共和国になったハワイに渡り、布教活動のかたわら、 Honolulu市内にあった多人種からなる幼稚園に、日本人を対象にしたクラスの増設を願い出て認められるも、使用言語が英語であったため、その一部を借り受けて、

白馬会・・・1896＝31歳：

日本人小学校を開校、すぐに手狭になったため、家屋を借り受け寄宿舎も備えた、日本内地の公立小学校に準ずる、ハワイで最初の本格的な日本人小学校を創設して、日本人移民の子弟の教育に着手、文部省からも美挙と評価され、教育勅語の謄本と教授用具、教科書一式が送られた。

子規句歌革新1898＝33歳：

Bushidou・・・1899＝34歳：

日本人移民は出稼ぎで子弟教育に関心がなかった。ハワイ共和国がアメリカに吸収され準州になるなか、日本人小学校は順調に発展し、新たに土地を購入して校舎を新築、尋常科と高等科に分け、学務員制度を導入して経営委託するまでになるも、教員不足が深刻な問題になり、

ハワイ国産化・1900＝35歳：

合衆国憲法が適用されて、ハワイで誕生した日本人子弟は、届出さえすればアメリカ市民権が得られるようになるも、公立学校で市民教育を受けることが義務付けられ、教育方針を転換する必要にも迫られる。

田中正造直訴1901＝36歳：

教科書疑獄・1902＝37歳：

文部省に要請して、教員や校長が派遣された。

日比谷公園・1903＝38歳：

「成功の生涯」、

日露戦争始・1904＝39歳：

*マキキ教会を創設。のちに、米国史を読んで、アメリカに移住した清教徒が教会堂と学校を建設したように、自治教会・自由教育がアメリカ建国の土台であることを知って感動し、日本人移民への伝道と教育の重要性を認識したと述懐しているが、同志社で学び、日本人移民社会で伝道に従事する人たちにとって、独自の教会を設立し、教育活動に従事することは、新島の遺志を継ぐことを意味していた。

日露戦争終・1905＝40歳：

満鉄発足・・・1906＝41歳：

サンフランシスコで、公立学校への日本人学童の入学が拒否されることに始まる反日運動の高まりとともに、日本語学校に対する批判が起こったため、いち早く、アメリカへの同化政策を重視する学校改革を行い、アメリカ市民教育に対応する教育方針に切り替え、

韓国併合・・・1910＝45歳：

中学科と高等女学科を加えて、{布哇中央学院}と改称した。

明治天皇没・1912＝47歳：

第一次大戦始1914＝49歳：

ハワイ全島の連合教育会の結成集会に日本から招待された志賀重昂が、ハワイに適した独自の教育をするよう促して大きな反響を呼び、

21ヶ条要求・1915＝50歳：

ハワイ教育会の創立にあたって、有田八郎総領事代理も、排日運動の沈静を図るべく、ハワイ独自の教育方針を採用すべきとして、大きく転換、有田の提案で、まず{日本人小学校}を{日本語学校}と改称、

ロシア革命・1917＝52歳：

「太平洋の楽園」を刊行、序文を寄せた山室軍平は、奥村の事業が、伝道に止まらず、日本人移民社会のあらゆることに及び、誹謗中傷を受けたことを明らかにしている。

ベルサイユ条約・1919＝54歳：

日本に帰国の際には、原敬首相に、国籍法の改正を請願、

原敬首相暗殺1921＝56歳：

*結果として、伝統的な行事や文化を保持し日本国民教育を掲げる仏教系や神道系の日本語学校と対立、生徒獲得競争のみならず、アメリカの外国語学校取締り法への対応を巡って激しく対立するようになる。仏教系や神道系の日本語学校が憲法違反であると、「試訴派」を形成したのに対し、キリスト教系の日本語学校は、

ハワイ在住の日本人知識人の多くとともに、「反試訴派」を形成、日本国総領事館の支持も得たことから、

並行して、排日予防啓発運動を始めるとともに、将来アメリカ市民としてアメリカで生活基盤をつくる日系二世のための教育運動や米化主義に関する啓発事業を行い

護憲三派圧勝1924＝59歳：

アメリカの排日移民法施行されると、

治安維持法・1925＝60歳：

{「布哇に於ける日米問題解決運動」}を刊行して、

円本時代始・1926＝61歳：

以後4年、日本国籍の放棄を説得する運動を展開し、

金融恐慌・・・1927＝62歳：

次世代の日系人リーダー養成のために日系市民会議を創設。必要な経費は、ハワイの資本家などアメリカ人の支援によっている。

共産党事件・1928＝63歳：

満州事変・・・1931＝66歳：

五一五事件・1932＝67歳：

建てられた教会建築の外観は故郷の高知城天守を模している。

日中戦争始・1937＝72歳：

日米開戦・・・1941＝76歳：

日系市民会議は日米開戦直前まで15回開催された。

敗戦・・・1945＝80歳：

敗戦直後には、軍部の依頼で、ラジオで日米融和を呼びかけ、以降たびたび日本への帰国を希望したが、

新憲法公布・1946＝81歳：

新憲法施行・1947＝82歳：

許可されることなく、

独立回復・・・1951＝86歳：

同志社から{新島会}の委員就任の依頼を受けた翌月、没した。